

“挑戦と実行”



ツネログ #20 2026年4月号

皆さん、こんにちは。

3月29日の評議員会において承認を受け、2期目に入ることになりました。5年後の2031年までに実現したいビジョンを示す「サッカーで未来をつくる」成長戦略も策定し、1期目の2年間で見てきたものを実行に移していくフェーズに入っていくことになります。あらためて身が引き締まる思いです。

就任以降、47FA訪問会議で全ての都道府県に足を運び、各協会の皆さんと直接顔を合わせてコミュニケーションを取ってきたことで実情の把握に努めました。2期目は会議体やタスクフォースを立ち上げるなど、「横の結びつき」を図りつつ、運営基盤を強固なものにしていきます。地域が力をつけていくために日本サッカー協会（JFA）として、伴走しながらしっかりと支援していきます。情報やノウハウの共有、人材育成、交流を通じてお金が回る仕組みを地域につくっていくことが、日本サッカーの未来につながっていくと考えます。

そして、未来をつくっていくのは子どもたちです。

大人の事情によってキッズ・4種（U-12）の選手たちが「登録ができない」「登録手続きが進まない」といったケースが見受けられます。そのような理由で子どもたちが試合に出場できないような状況は、決してあってはなりません。こうした事態をなくすためにも、市区町村サッカー協会（FA）の自主性を大切にしつつ、都道府県FAとして必要な連携やガバナンスが図れるようにするなど、規約の改定を含めた環境整備を早急にすすめていく必要があります。それとともに、子どもたちが安心・安全にサッカー、スポーツを楽しむ権利とその環境を守るため、セーフガーディングの重要性をこれまで以上に強調していきます。4種の登録数を伸ばすことは「競技スポーツ」と「生涯スポーツ」のダブルピラミッドを大きくしていくことにもつながります。

私が1期目の就任時に掲げた「競技面の成果」「女子サッカーの拡大」「商業価値の向上」という3つの“BIG GOAL”には、継続して力を入れていく所存です。商業価値につきましても、先に社会的価値があってこそです。サッカーが持つ普遍的な価値を社会と共有し、ともに社会を良くしていくことがパートナー企業との価値共創の関係性を高め、新たな取り組

みや収益につながっています。「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」というJFAの理念に照らし合わせ、社会的価値を一層高めていきます。

国内の基盤強化に努める一方で、国外にも積極的に目を向けていきます。国際サッカー連盟（FIFA）、アジアサッカー連盟（AFC）の会議や活動を通じて世界のサッカー界の流れをいち早くつかんでいくことが、今後の指針を決めていくうえで大切になってきます。

いずれにせよ1期目で築くことができた皆さんとのコミュニケーション、皆さんとのチャンネルが私の財産になっています。これをしっかりとベースに置きながら、日本サッカーの明るい未来に向けて一緒に歩を進めていきたいと思っています。

最後になりますが、なでしこジャパン（日本女子代表）がAFC女子アジアカップオーストラリア2026で2大会ぶりに優勝を遂げました。7万4000人を集めた開催地オーストラリアとの決勝はアウェイマッチの中で全員が体を張り続け、勝負に徹した試合運びには頼もしさがありました。プレー強度はかつてのなでしこよりもレベルが上がっているなど感じました。出場権を得た来年のFIFA女子ワールドカップに向けて、弾みのつく素晴らしい優勝だったと思います。



会長の活動報告

2026年2月13日～3月12日(抜粋版)

2/13(金)

H.E. Ms. Melba PRÍA駐日メキシコ大使が来局 (JFAハウス)



6月に開催されるFIFAワールドカップ2026のグループステージ2戦目はメキシコのモンテレイで開催。SAMURAI BLUEの選手たちがベストを尽くせるよう、さまざまなルートを通じて現地の情報収集や協力要請に努めています。

2/24(火)

Jリーグ理事会(Jリーグ)

2/25(水)

WEリーグ理事会(JFAハウス)

3/3(火)

JFA事務局 FIFAワールドカップ2026 開幕100日前施策共有会(JFAハウス)



FIFAワールドカップ2026まであと100日を切りました。「最高の景色を2026」を合言葉にしていますが、ワールドカップはピッチで戦う選手だけでなく国としての総力戦になります。日本の全てのサッカー関係者のみならず、多くの皆さんを巻き込んで最高の結果に挑んでいきます。

2/14(土)

全国技術委員長・専務理事合同会議 (高円宮記念JFA夢フィールド)



フットボールの発展には、「技術の視点」と「経営の視点」の両方が欠かせません。都道府県サッカー協会(FA)の運営においては、技術委員長と専務理事がその両輪であり、互いの役割や考えを理解しながら連携していくことが重要です。今後もこうした機会を大切にしていきたいと考えています。

3/5(木)

「F.LEAGUE AWARDS 2025-26」表彰式 (ザ・プリンス・パークタワー東京)



シーズンを通じて素晴らしい活躍を見せた選手や指導者、関係者の皆さまを称えました。それぞれの歩みや挑戦の積み重ねに、フットサルが持つ魅力と価値、そして競技のさらなる発展に向けた大きな可能性をあらためて実感する機会となりました。

2/17(火)

JFA事務局 部署目標説明会(JFAハウス)



各部署の取り組みや目指す方向性をあらためて共有しました。日々の業務では見えにくい他部署の役割や考え方への理解が深まり、組織全体としての一体感と連携の質を高めていく重要な機会となりました。

3/9(月)

Jリーグ臨時理事会(Jリーグ)

3/11(水)

日本サッカー後援会評議員会(JFAハウス)



日本サッカー後援会は1977年に創設され、今年で50年目を迎えます。これまで後援会からJFAにお寄せいただいた交付金は20億円を超え、日本サッカーに関わるさまざまな活動を支える大きな力となってきました。長年にわたるご支援に深く感謝申し上げます。

2/18(水)

WEリーグ実行委員会(JFAハウス)

2/19(木)

中田昌宏 駐モロッコ日本国大使が来局(JFAハウス)

3/12(木)

JFA理事会(JFAハウス)



理事会トピックス

2026年度第3回理事会が3月12日(木)、JFAハウスおよびWeb会議システムで開催されました。
また、後述の2026年度定時評議員会の後、新理事による第4回理事会が同29日(日)にJFAハウスおよびWeb会議システムで開催されました。
各理事会の詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式Webサイトをご参照ください。

【第3回】決議事項

「プロサッカー選手の登録、契約及び移籍に関する規則」 他各種規則の改正

プロ契約を締結できる最少年齢について、現行の「16歳以上」から「高校1年生相当年齢」に変更したほか、Jリーグのシーズン移行を受け、シーズンが重複するリーグ間での移籍については例外として3クラブ目での公式試合出場を認めることになりました。「女子プロサッカー選手の登録、契約及び移籍に関する規則」と「サッカー選手の登録と移籍等に関する規則」も同様の内容に改正されます。また、FIFA規則にあわせて「サッカー選手の登録と移籍等に関する規則」「懲罰規程」「和解あっせんに関する規則」も改正します。

「指導者に関する規則」の改正

「指導者に関する規則」の指導者ライセンス再認定制度の一部を改正します。これは、部活動の地域展開を見据えて、失効したライセンスを再認定する要件を緩和するものです。

「リスペクト委員会」を「サステナビリティ・リスペクト委員会」に改称

これまで通りリスペクトやフェアプレーを推し進めつつ、環境、人権、教育、地域、健康といったサステナビリティ全体に取り組みを広げ、サッカーを通じて持続可能な社会の発展を目指していきます。

【第3回】報告事項

新たに3人がProライセンスを取得

Jクラブや日本代表チームを率いる上で必要なProライセンスについて、新たに成山一郎さん、藤川祐司さん、宮沢正史さんの3人が同ライセンスを取得しました。これで2025年度の受講生20人のうち17人が認定されました。

【第4回】決議事項

役員等を選定

理事の互選により宮本恒靖会長の再任が決定しました。また、岡田武史、野々村芳和、西原一将の各副会長、湯川和之専務理事、山口香常務理事が再任され、西本強理事が常務理事に昇格しました。業務執行理事は田中琢二氏、小澤隆生氏、須藤実和氏が再任されたほか、井原多美氏、桂木聖彦氏、西澤和剛氏、和田敬氏、福田雅氏が就任。各種委員会の委員長も決定し、新たに今泉守正氏が女子委員長、須藤実和氏がサステナビリティ・リスペクト委員長、上田栄治氏が殿堂・表彰委員長に就任しました。

定時評議員会トピックス

2026年度定時評議員会が3月29日(日)、JFAハウスおよびWeb会議システムで開催されました。
詳細については、JFA公式Webサイトをご参照ください。

決議事項

評議員5名、および理事15名と監事2名の選任

評議員5名の選任が決議されたほか、役員等推薦委員会で推挙され、第3回理事会において承認された理事15名および監事2名が選任されました。監事については、理事に就いた福田氏に代わって山田彰宏氏が選定され、生田圭氏と共に監事を務めることになりました。

規律委員会、裁定委員会、不服申立委員会の各委員の選任

JFAの司法機関である規律委員会、裁定委員会、不服申立委員会の委員の任期が満了となるため、それぞれの委員を選任。規律委員会は高山崇彦氏、裁定委員会は山田秀雄氏、不服申立委員会は中島肇氏がそれぞれ委員長に就任しました。

報告事項

2026年度事業計画および予算

「競技面での成果」「女子サッカーの拡大」「社会的価値の創出」を軸に活動した結果、SAMURAI BLUEはFIFAワールドカップ2026の出場権を獲得し、東アジアE-1サッカー選手権で優勝、なでしこジャパンはSheBelieves Cup初優勝を果たしました。女子サッカーでは、WEリーグの経営支援を継続し、普及・育成事業を推進。さらに、パートナーシップの拡大やダイナミックプライシングを活用した入場料の収入増、クラウドファンディングや「JFA DREAM FUND」、復興支援活動やサステナビリティ活動にも注力しました。2025年度決算は、正味財産ベースで収入234.4億円(前年比+1.7億円)、支出は233.4億円(前年比+11.4億円)となり、当期正味財産増減は+1.0億円(前年比▲9.7億円)となりました。

Information

FIFAワールドカップ2026におけるキャンプ地

FIFAワールドカップ2026におけるSAMURAI BLUEの事前キャンプ地が「Tigres Training Center」(メキシコ/モンテレイ)に、チームベースキャンプトレーニングサイトが「Nashville SC Training Center」(アメリカ/ナッシュビル)に決まりました。※2/27発表

その他の主なニュース

- ・ JFAクラウドファンディング「春の新体制スタート」応援フェア(2/27発表)
- ・ コールマン×JFAコラボプロジェクト説明会を3/13にblue-ing!で開催(3/2発表)
- ・ FIFAワールドカップ2026開幕まであと100日! 森保監督・宮本会長「100日後、最高の景色へ 皆さんと共に」(3/3発表)
- ・ サッカー日本代表パートナー企業9社が応援広告で渋谷をジャック「SAMURAI BLUE POP UP」を3/25~31にMIYASHITA PARKで展開(3/3発表)
- ・ FIFAが全世界で展開する学校教員プログラム「FIFA Football for schools」に参画(3/3発表)
- ・ 「JFA・日清オイリオU-12年代の成長とパフォーマンスを支える食と栄養セミナー&サッカー教室」を4/3に高円宮記念JFA夢フィールドで開催(3/5発表)
- ・ JFA×KIRIN共催「キリンファミリーチャレンジカップ2026 in 千葉」を5/17に高円宮記念JFA夢フィールドで開催(3/6発表)
- ・ 「育成年代応援プロジェクト JFAアディダス DREAM ROAD」アイントラハト・フランクフルト(ドイツ)へ4選手が短期留学(3/10発表)
- ・ 高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2026公式アンバサダーに板倉滉選手が就任(3/11発表)
- ・ blue-ing!がCAFE&BARのメニューをリニューアル(3/12発表)
- ・ 「エミレーツFAカップ」"オフィシャルトロフィーツアー"が日本初上陸。特別トークセッションを3/31にMUGSスタジアムで開催(3/12発表)
- ・ 第21回日本サッカー殿堂掲額者・井原正巳氏のレリーフ盾贈呈式を3/19に高円宮記念JFA夢フィールドで開催(3/12発表)

JFA/Jリーグポストユースマッチ開催

JFAとJリーグは、23歳以下の世代を中心としたポストユース世代の発掘・強化を目的とした「JFA/Jリーグポストユースマッチ」を昨年に引き続き開催します。5回目の活動となる今回は「U-19Jリーグ選抜」を結成し、3月11日・13日にCSアセット港サッカー場(愛知県名古屋)で全日本大学選抜、全韓国大学選抜と対戦します。※3/2発表



動画
公開中!



アディダス ジャパン株式会社 マーケティング事業本部
高橋慶多さん・金子勝太さんを

ダブル
マンマーク!

第20回はJFAオフィシャルサプライヤーのアディダス ジャパン株式会社からマーケティング事業本部の高橋慶多さん(写真右)、金子勝太さん(同左)を招き、日本代表新ユニフォームの「誕生秘話」に迫ります。

日本代表ユニフォーム誕生秘話 「ホライゾン」にこめられた意味とは

宮本 今回のホームユニフォームのコンセプトは「ホライゾン(水平線)」です。あらためてコンセプトにこめられた意味や、ストーリーを教えてくださいませんか。

金子 大きな夢、目標に対して、チームの皆さん、ファン・サポーターの皆さん、サッカーファミリーの皆さんの力が一つになっていける、その象徴が水平線であればいいなという思いから始まっています。視覚的にも水平線をダイレクトに分かってもらえるようなグラフィックに仕上げています。

高橋 金子から「ホライゾン」と聞いたときに、SAMURAI BLUEが前回のカタールでのワールドカップで打ち出していた「新しい景色」というワードとすごく共鳴するコンセプトだなと感じましたね。

金子 JFAの2005年宣言にも「DREAM 夢があるから強くなる」という言葉があって、(このコンセプトなら)ピッタリだな、と。今回、JFAの皆さんにお伝えしたとき「感動しました」と言ってもらえたんです。同じ方向性だと確信した瞬間でもありました。ツネさんは新ユニフォームを見て、どんな印象を持たれましたか。

宮本 淡い水色とブルーのコントラストが、とてもきれいだなというのが第一印象でした。すっきりした、いいデザインですね。クレスト(紋章)が真ん中にあるというのも珍しい。そしてオフホワイトのアウェイユニフォームもまた違う味がありますよね。

金子 水平線の向こう側ってどんな景色なんだろう、たどり着いたときにどう描けるんだろうという思いから、「夢を描く」をイメージしたのがアウェイユニフォームです。白いキャンバスに、一人ひとり違う選手が一つになってどんどん強い日本代表になっていく……カラフルな色味で表現しています。

宮本 何色、使っているんですか。

金子 ボディカラーのオフホワイトを含めて12色。ピッチの11人と、真ん中の赤はファン・サポーター、サッカーファミリーを表しています。

宮本 12はサポーターナンバーでもありますからね。アディダスの皆さんのほうから、われわれのコミュニケーションと合致するものを出してくれたというのは、すごく嬉しかったですね。私もミーティングに参加しましたが、ドイツとオンラインで結びながら、丁寧に説明をしていただきました。「この先に見える景色が最高のものでありたい」という願いを持ってつくってもらったことにも、ストーリー性を感じましたし、JFA内のプロジェクトチームもしっかりとコミュニケーションをとってくれたことがよく理解できました。GKユニフォームについても一言、お願いいたします。

金子 GKユニフォームには明るい赤を採用し、阿修羅像からインスピレーションを受けたグラフィックにしています。水平線の向こう側にチームとして戦っていくときに、守護神として太陽みたいに明るく前を照らしてくれる存在ですから。

宮本 続いてプロモーションのことをうかがいたいと思います。昨年11月7日から渋谷の道玄坂広場に設置した「ビッグタケメニューメント」(久保建英選手の巨大メニューメント)には、大きな反響がありました。たまたまあの期間、場所が空いていたか

ら「ビッグタケ」を思いついたのか、それともアイデアが先にあったのかということ？

高橋 アイデアが先です。インパクトと話題を生むにはどこでやるのがいいか、いくつか候補地はあったんですけど、渋谷のあの場所でやりたいと思ってスケジュールを確認したら、その期間だけ偶然空いていたんです。

宮本 ユニフォームの発表は11月6日。世界で決まっているからずらせない。それでビッグタケが7日から……持ってますねえ(笑)。

高橋 奇跡です!もし、あそこが空いていなかったらあの企画はなかったかもしれません。新ユニフォームの露出換算をすると、前回のワールドカップの倍以上になっています。ビッグタケだけで換算すると、展開したのは10日間だけなんですけど、SNSをはじめ、何かしらで触れたリーチが20億を超えていました。日本中心ではあるんですけど、世界に広がっていったのでかなりびっくりしました。

宮本 20億はすごいですね。では最後に、新ユニフォームを着て見える景色がどんなものであればいいなって思いますか。

高橋 選手たちが公言しているように、今回のワールドカップにおける「最高の景色」こそ水平線の先に行くことだと思いますので、ファン、サポーターの皆さんにもぜひその景色を見てもらいたいなという思いです。また、アウェイユニフォームは日本サッカーの未来を描くコンセプトなので、より一人ひとりの個性が尊重される日本サッカー界になっていけばいいですね。

金子 目指している夢、目標は、やっぱりワールドカップで優勝すること。選手たちだけでなく、私たちにとっても同じ夢、目標ですから、このユニフォームで実現できればすごく嬉しいですし、水平線の向こうには未来への希望が広がっていると思います。水平線の向こう側の景色をみんなで見た後に、それぞれのプレーヤーや子どもたちが、自分の未来に希望を持てるようなそんな景色が見られたらいいなって思います。

宮本 未来への希望が持てるような景色を、最高の景色を、この新ユニフォームを着て、一緒に見たいですね。日本でも世界でもたくさんの方が着てくれることを願って、ワールドカップに向かっていきましょう。

高橋慶多(たかはし・けいた)

1985年8月14日生まれ。群馬県出身。順天堂大学卒業後、2014年にアディダス ジャパン株式会社入社。24年よりマーケティング事業本部のフットボール&SP/US/チームスポーツビジネスユニットでブランドコミュニケーションズ シニアマネージャーを務める。日本代表チームのキャンペーン設計やプロモーション、コミュニケーション戦略など、フットボール領域のブランドコミュニケーションを統括。

金子勝太(かねこ・しょうた)

1992年7月18日生まれ。千葉県出身。市立習志野高校卒業後、2016年にアディダス ジャパン株式会社入社。22年よりサッカー-日本代表のユニフォーム開発を担当。素材や機能、デザインの詳細に至るまで日本代表の「DNA」を表現し続けている。フットボールフットウェアやハードウェアカテゴリーの商品企画も担当。現職はマーケティング事業本部フットボール&SP/US/チームスポーツビジネスユニットのカテゴリーマネージャー シニアマネージャー。

※次号は2026年5月発行予定/本誌クレジット表記のない写真: ©JFA、©JFA/PR、©Jリーグ、©WEリーグ



発行:公益財団法人日本サッカー協会

〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル 電話: 050-2018-1990 HP: <https://www.jfa.jp>

